

## 再 評 価 書

事業名	防災ダム事業(地震対策ため池防災工事) 安部・七郷池地区		事業区分		室名	農業基盤室
事業概要	工期	H10年度～H23年度	全体事業費	1,182百万円(負担率：国55：県30：他15)		
	(下段：当初)	H10年度～H16年度	(下段：当初)	1,200百万円(負担率：国55：県30：他15)		
<b>事業目的及び内容</b>						
<p><b>【事業の目的】</b>          本池の堤体は築造年代が不明で、経験と勘で造られた土堰堤であり老朽化していました。地震などにより決壊した場合には、本池が集落・農地に対して高位部に位置することから、ため池下流域(289.0ha)は鉄砲水を受けることになり、人命・人家やライフライン等へ重大な影響を及ぼすことが予想されました。従いまして未然に被害を防止するため、緊急的に着手いたしました。</p> <p><b>【事業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安部池：堤体工 1箇所、洪水吐工 1箇所、取水施設工 1箇所</li> <li>・七郷池：堤体工 2箇所(本堤・中堤)、洪水吐工 1箇所、取水施設工 1箇所</li> <li>・管理用道路工 L=940m (1号L=600m ・2号L=340m)</li> <li>・観測施設工 1式</li> </ul>						
<b>事業主体の再評価結果</b>						
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業であり、三重県公共事業再評価実施要綱第2条に基づき再評価を行いました。(採択後10年経過で継続中かつ採択年度に翌年度から5の倍数年)</p>						
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p><b>【進捗状況】</b></p> <p>①安部池の工事に関しては、すべて完了しています。</p> <p>②七郷池の工事に関しては、堤体工(本堤)の一部および取水施設工の一部が完了しています。</p> <p><b>【今後の見込み】</b></p> <p>今後の予定としましては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H20年度は七郷池本堤・中堤および取水施設工</li> <li>・H21～H22年度は引き続き七郷池本堤・中堤および七郷池洪水吐工</li> <li>・H23年度に観測施設工と管理用道路工の暫定断面区間分を実施し、事業完了する予定です。</li> </ul> <p>H20年度末において、事業費で66%完了予定です。</p>						
<p>3 事業を巡る社会経済状況等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成10年度の計画時より10年経過致しました。しかし、局部的に宅地化(0.4ha)がありますが、地域としてはほとんど農地から宅地への転用もなく、計画時と周辺環境はほぼ同じ状況であります。</li> <li>・安心・安全に対する意識、あるいは環境に対する県民の意識が高まりました。</li> </ul>						

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

- ・事業採択時：費用対効果分析結果・・・1.98
- ・現時点：費用対効果分析結果・・・1.91
- ・費用対効果が下がった要因  
労働単価や農作物価格の下落によるものです。

4-2 地元意向

- ・安部池については、観測施設工を除いて改修工事は完了していることから、堤体工の安全性は確保されるとともに、維持管理の軽減が図られています。
- ・七郷池については、残工事を早期に完成させ、安定した農業用水の供給と、安全・安心な農業生産を望んでいます。

5 コスト削減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト削減

- ・安部池で発生した掘削残土（底泥土）に砕石を混ぜ合わせることにより、含水比の低減と粒度調整を行い、七郷池の堤体盛土材に流用しています。そのことにより、残土処分の低減を図るとともに購入土の工法と比べて、17,000千円のコスト削減となりました。
- ・入札制度の改革による入札価格の低減により、81,500千円のコスト削減となりました。

上記により、合計98,500千円のコスト削減となりました。

5-2 代替案

特にありません。

再 評 価 の 経 緯

今回が最初の再評価になります。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、当事業を継続したいと考えています。